

## 上野村におけるネズミ類の生息調査（予報）

木村敏之（群馬県立自然史博物館）

群馬県立自然史博物館では平成23年度より3カ年の計画で上野村における地質・動植物等の調査を行っており、この調査の一環として上野村におけるネズミ類の生息調査を実施している。本調査では上野村地域におけるネズミ類を中心とした小型哺乳類の分布についての基礎データの収集を目的としている。調査は平成23年9月及び10月に予備調査を実施し、その後平成24年6月より村内の様々な地点において捕獲調査を継続して実施してきた。本発表ではこれまでに実施された調査の概要及び現時点（平成24年12月）までの調査結果についての予察的な報告を行う。

### 調査概要

調査対象地域は上野村全域を対象としている。ただしこれまで実際にトラップを設置し捕獲調査を行う事が出来た地点は限られる。図1に調査地点を示す。これまで標高500mから1290mまでの、のべ40地点において調査を実施している。

調査にはシャーマントラップを使用し、餌としてオートミール等を用いた。各調査では初日の午後トラップを設置し、翌日の午前には捕獲個体の回収を行った。いずれの調査も1晩のみの調査である。なお捕獲された個体は計測後に放逐したが、捕獲された個体のうち死亡個体については標本化し、当館の収蔵資料とする予定である。現時点では村内のなるべく広い範囲において調査を行うため、同一地点における複数回の調査は一部の地点を除いて行っていない。そのためこれまで捕獲個体を放逐する際に標識は行っていない。

2011年度には予備調査として9月及び10月の2回の調査を実施した。また2012年度は6月より基本的に月1回の調査を実施している。

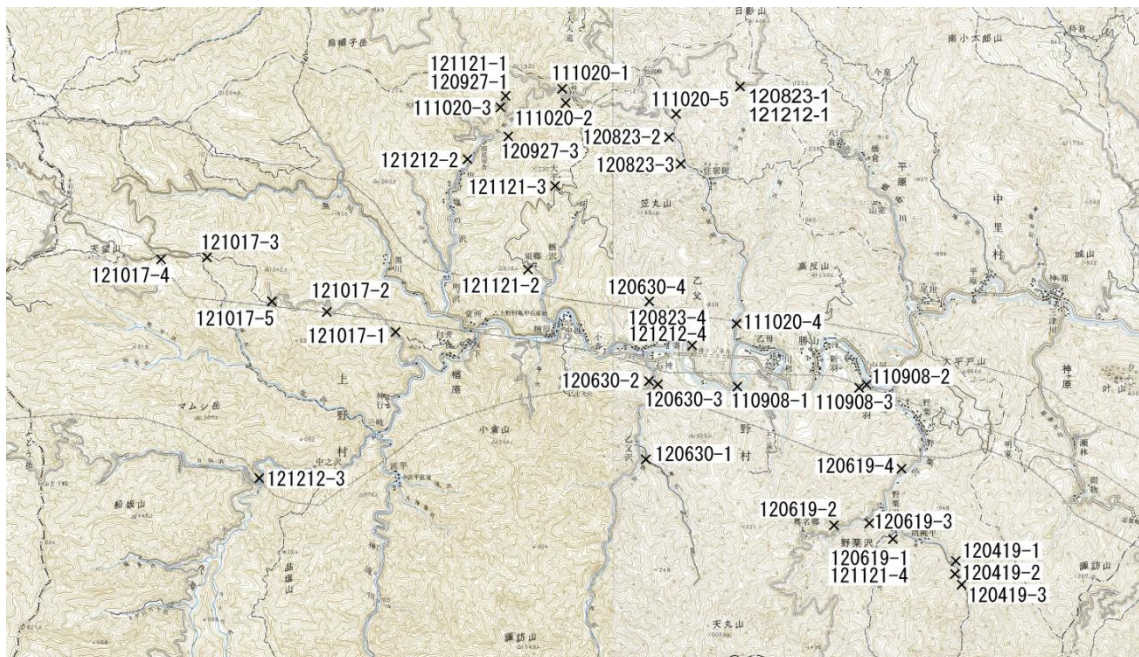


図1 調査地点図（国土地理院5万分の1地形図「十国峠」,「万場」）

## 調査結果

これまでの調査では調査毎に調査地点が異なるため、これまで得られた調査結果の解釈については今後さらなる基礎的なデータの積み重ねによる慎重な検討が必要である。したがって以下では今回の調査において現時点までに得られている情報に基づいてあくまで予察的な検討を行う。

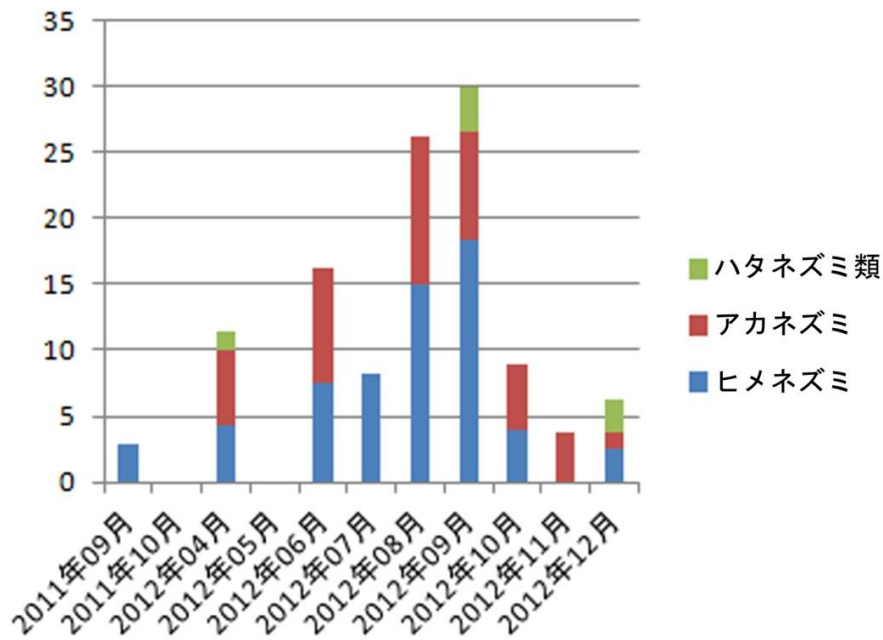


図2 捕獲調査結果  
(100トラップあたりの捕獲数)

これまでの捕獲調査によって得られた結果を図2に示す。これまでの調査ではのべ10回の調査で合計800個のシャーマントラップの設置を行い、86個体のネズミ類及び1個体の食虫類が捕獲された。捕獲されたネズミ類はアカネズミ47個体、ヒメネズミ34個体、ミズハタネズミ亜科5個体である。全体の捕獲率は10.8%である。ただし2011年度と2012年度では捕獲個体数の傾向には大きな違いが認められる。2011年度9月及び10月に実施した調査では、165個のシャーマントラップを設置し、2個体のネズミ類（アカネズミ）が捕獲された（捕獲率1.2%）。これに対して2012年度6月～12月の調査では635個のシャーマントラップを設置し、84個体のネズミ類（及び1個体のモグラ類）が捕獲された（捕獲率13.4%）。調査回数に限られるため慎重な議論が必要だが、このような傾向はネズミ類の個体群動態は年ごとに大きく異なることが示唆される。

2012年度のみでは8月及び9月の捕獲数が顕著に多い一方で、冬期（10月～12月）には捕獲数の顕著な減少が見られる。捕獲された種に注目すると、アカネズミ及びヒメネズミは一部に例外が有るものの、ほぼ調査期間を通じて捕獲された。その一方でハタネズミ類は捕獲個体数自体少なく、捕獲されたのは4,9,12月のみである。捕獲個体数の変化では、アカネズミは夏期（8月及び9月）に捕獲数が顕著に増加するが、ヒメネズミは冬期には捕獲個体数の減少傾向はみられるものの、アカネズミほど季節変動は見られない。なお一部で同一地点において夏期及び冬期の2回の捕獲調査を行ったが、その捕獲調査でも捕獲個体は夏期に比べ冬期は顕著に少ない。アカネズミにおいて捕獲された個体の体重の変動傾向をみると、6月の調査において捕獲された個体では捕獲個体の体重のばらつきが多く、成体に加え幼体が捕獲されていると判断される。その後、捕獲個体の平均体重は夏期にむかって増加する。同様の傾向はヒメネズミでも見られる。

現時点では限られた情報しか得られていないため、詳細な議論を行うには今後の継続的な調査が必要であろう。